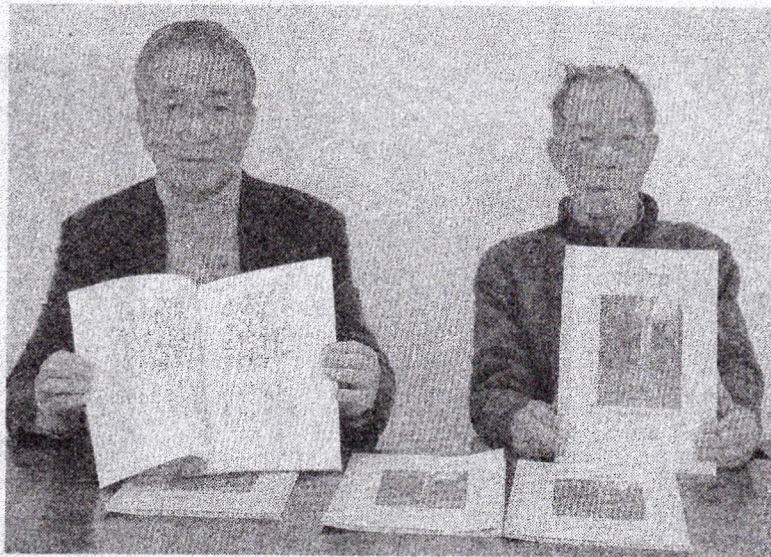


# 「木津の重要な資料に」

木津川市で活動する「木津の文化財と緑を守る会」(岩井照芳会長、会員約100人)はこのほど、創設40周年記念の会報「泉」第9号を発刊した。旧木津町史にも記載がなく、伝承でしかなかった江戸時代の高級麻織物「木津晒(さらし)」を解説した初めての冊子とみられ、「木津の近世史の重要な資料になる」と、会員は胸を張る。

「木津の文化財と緑を守る会」



「資料として読み継がれることを目指した」という会報を紹介する「木津の文化財と緑を守る会」の岩井照芳会長(左)と後藤啓治事務所長(右)木津川市

## 江戸時代の織物

40周年記念の会報冊子で

## 「木津晒」を解説

荒れていた興福寺築備もあって、来年国史城の中世城郭、鹿背(かせ)山城跡(同市長の後藤啓治さん(74)鹿背山)は、同会の整も尽力してきた。

同会が平成17年ごろ入手した木津の名家の古文書には、江戸時代に織物の検査をする「判場」で判を押して木津晒に税を課したことや、奈良晒から合併の訴訟を起こされたことなどが記されていた。

岩井会長(70)は「山城判場や木津晒を記した初めての史料で、私が子どものころ聞いた言い伝えが裏打ちされた。和漢三才図会(江戸時代の百科事典)に、晒布産地として、和州奈良などととも山州木津と書かれていたことも明らかになった」と話す。

ほかに、恭仁(こうに)京や興福寺の創建瓦を焼いた梅谷瓦窯(がよろ)の保存活動も記載。

岩井会長は「勉強すれば、大和と相楽郡は一緒と分かる。活動資金が不足していて、興味ある方は購入してほしい」と呼び掛ける。

会報はA4判64ページ。1冊900円(別途送料、封筒代計1000円)。問い合わせは岩井会長、電話0774(72)0014。